

令和2年版
岡山県環境白書(概要版)

The
Environment
of Okayama

おかやま環境レポート

2020



新岡山県環境基本計画 (第2次改訂版)



地球環境の保全は、人類共通の課題であるとともに、私たち一人ひとりの課題でもあります。岡山県（以下「本県」という。）では、「新岡山県環境基本計画～エコビジョン2020～（第2次改訂版）」に基づき、「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」を目指し、社会のすべての構成員の参加と協働による環境保全への不断の取組を継続するとともに、環境を核とした地域の活性化や地域産業の振興を総合的に推進していきます。

計画の目的

岡山県環境基本条例の理念に基づき、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

計画期間

平成20年度～令和2年度
(2008年度～2020年度)

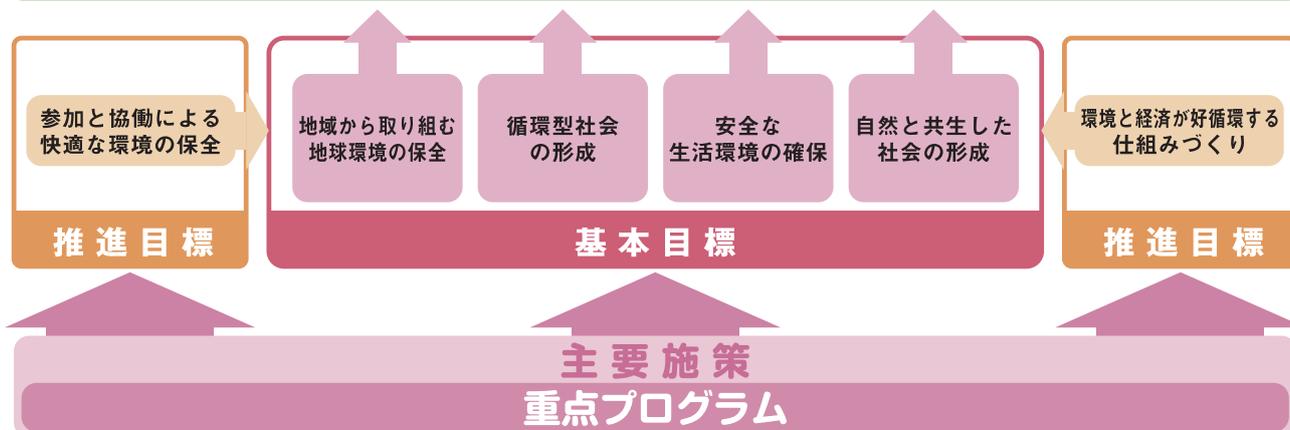
計画の役割

- 1 環境の保全に関する総合的かつ長期的な目標・施策の大綱を示します。
- 2 環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。
- 3 県民、事業者、行政など社会のすべての構成員の役割と責任を示します。
- 4 本県の環境行政の指針として、他の行政施策や計画をより良い環境づくりに向け誘導・調整します。



目指すべき姿 令和2年度 (2020年度)

「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」の実現を!



県民

事業者

行政

協働による計画の推進

プロジェクト推進会議

地球温暖化防止プロジェクト推進会議

太陽光発電などの新エネルギーの導入促進、低公害車の導入促進などの省エネルギーの推進、森林の保全などの吸収源対策の推進 等

ごみゼロ社会プロジェクト推進会議

廃棄物の発生抑制、再利用及び再生利用に関する計画の策定及び施策の企画立案 等

自然との共生プロジェクト推進会議

希少野生動植物の保護、移入種対策、野生鳥獣の保護管理等に関する企画立案 等

指導・助言

環境審議会

政策部会

景観部会

水質部会

大気部会

廃棄物対策部会

自然環境 保全審議会

自然保護部会

鳥獣部会

温泉部会

基本目標

基本目標
1

地域から取り組む
地球環境の保全

P03



基本目標
2

循環型社会の形成

P05



基本目標
3

安全な生活環境の確保

P07



基本目標
4

自然と共生した
社会の形成

P11



推進目標

推進目標
1

参加と協働による快適な
環境の保全

P13



推進目標
2

環境と経済が好循環する
仕組みづくり

P14



私たちの目指す、ふるさと岡山の姿とは

エコビジョン2020で目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」は、環境の側面ごとにみると、「地域から地球環境の保全に取り組む社会」、「資源が効率的に活用される社会」、「安全な生活環境が保全されている社会」、「自然と共生した社会」としてとらえることができます。また本県は、中国山地から瀬戸内海まで変化に富んだ多様・多彩な地域により構成されています。その自然条件や社会環境、人口構成等は大きく異なっており、目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」のあり様も、それぞれの地域において異なります。環境の側面ごと及び地域ごとにみた、達成すべき具体的なイメージを示します。

●環境の側面ごとの社会のイメージ

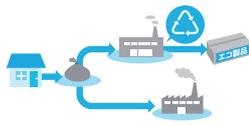
地域から地球環境の保全に取り組む社会

資源やエネルギーを浪費しないライフスタイルや事業活動が定着し、新エネルギーの地産拡大も進んで温室効果ガス排出量が大きく削減。



資源が効率的に活用される社会

大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却し、自主的、主体的な3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組が社会に定着。



安全な生活環境が保全されている社会

大気や水質、化学物質、騒音・振動等、健康や生活の平穏・快適性を損なう要因は抑制・監視され、安全で平穏な生活環境を確保。



自然と共生した社会

優れた自然環境や多様な野生生物の生息・生育地、森林が保全され、多くの県民が自然との日常的なふれあいを通じて、安らぎを実感。



●地域ごとの社会のイメージ

中国山地エリア

自然とふれあう県民の憩いの場や水源、CO₂吸収源、バイオマス供給源として重要な役割。環境ビジネス、エコツアーなど、新たな産業が誕生。



吉備高原里山エリア

岡山の原風景としての棚田や集落景観、里地・里山を保全。自然環境等の地域を豊かにする活動が地域で積極的に行われる。



市街地・田園エリア

エコライフ、省エネなどの定着により、ごみやCO₂排出量、大気環境、落書きなどが改善。事業者等の環境保全の取組が進み環境ビジネスへの参入も拡大。



瀬戸内海エリア

海や児島湖の水質や魚介類の生息環境が改善。ボランティア等による景観や水辺環境の保全活動が行われ、環境学習や住民の憩いの場として重要な役割。



基本 目標 1

地球環境の保全 地域から取り組む



オゾンホールや酸性雨、森林の減少など、さまざまな問題を抱えている地球環境。なかでも、地球温暖化は最も重大で深刻であり、その対策は喫緊の課題となっています。

本県では、省エネルギー型ライフスタイルの定着や新エネルギーの普及促進、環境への負荷を減らす社会システムの構築、森林の保全や緑化などを主要施策として掲げ、地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

現状と課題

温室効果ガスの県内での排出量は、平成29(2017)年度(速報値)では4,834万トンと推計されます。本県から排出される二酸化炭素等の温室効果ガスを減らしていくために、省エネルギー型ライフスタイルへの転換等を進めていくとともに、地域分散型の新エネルギーの導入を拡大する必要があります。

主要施策

- 地球温暖化対策
 - 新エネルギーの導入促進
 - 省エネルギーの推進
 - フロン類対策
 - 吸収源対策
- 酸性雨対策

重点プログラム

- 太陽光発電の導入促進
 - 新エネルギーの普及啓発
 - 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による排出抑制
 - アースキーパーメンバーシップ会員の拡大
 - 省エネルギー型機器等の普及拡大
 - 電気自動車等の普及促進
- など

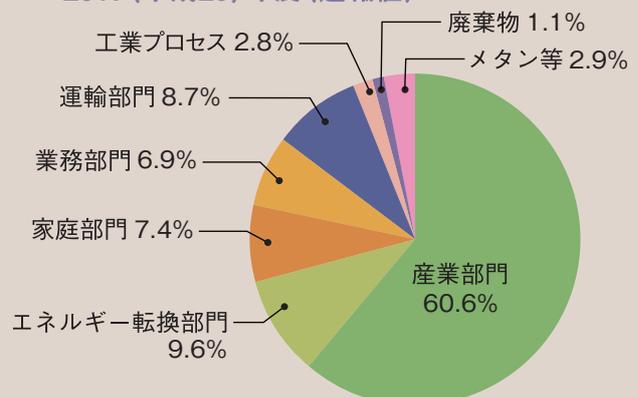
岡山県における温室効果ガス排出量と伸び率

	排出量(万t-CO ₂)		伸び率
	2013年度 (基準年度)	2017年度 (速報値)	
二酸化炭素	5,196	4,695	△9.6%
メタン	41	38	△5.9%
一酸化二窒素	24	25	0.8%
代替フロン類	54	77	41.9%
計	5,315	4,834	△9.0%

注：二酸化炭素以外の温室効果ガスは、二酸化炭素に換算した量で示しています。

資料) 岡山県資料

岡山県の温室効果ガス排出量の構成割合 2017(平成29)年度(速報値)



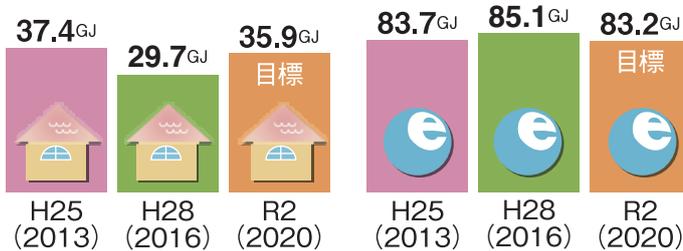
※産業部門から廃棄物までは、二酸化炭素排出量の割合である。
※桁数処理の関係で合計・比率等が合わない場合がある。

省エネルギー型ライフスタイルへ

省エネルギーや地球温暖化防止の推進のため、本県においても夏のクールビズや冬のウォームビズを県民運動として展開し、家庭やオフィスにおける省エネを促進しています。また、事業者が温室効果ガスの排出量を算定し報告する制度を平成22(2010)年度から運用し、自主的、計画的な排出抑制の促進を図っています。



●1世帯あたりのエネルギー消費量(GJ)



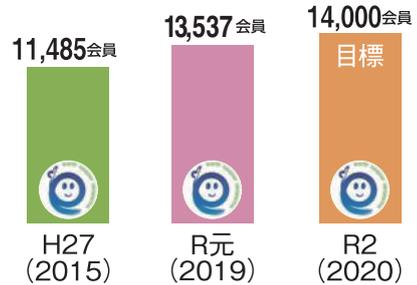
※J: ジュール(J)とは、仕事量、熱量、エネルギーの単位。1ワットの電力が1秒間に発生する熱量を1J/秒という。1GJ(キガジュール)は10億ジュール。

●製造品出荷額あたりのエネルギー消費量(GJ/百万円)

アースキーパーメンバーシップ会員に多くの県民や事業所が参加しています

地球温暖化を防ぐため、環境への負荷を減らす取組を行う個人や事業所を「アースキーパーメンバーシップ会員」として登録しています。

●アースキーパーメンバーシップ会員数



地球を守るための4か条

県民版	事業所版
1 待機電力を徹底してカット!使わない家電製品のプラグをコンセントから抜きます!	1 冷暖房時の室温を適温(夏季28度、冬季20度程度)にします!
2 緩やかな加速など、加減速の少ないエコドライブを心がけ、近い距離は歩くか自転車を使います!	2 必要のないOA機器や照明はこまめにスイッチをOFFにします!
3 不用なレジ袋は断り、マイバッグを賢く使います!	3 両面印刷などの省資源化に取り組み、オフィスで出るごみは適切に分別して捨てます!
4 ゴミのポイ捨てはせず、必ず分別して出し、きれいな地域環境を守ります!	4 エネルギー効率の高い機器を積極的に導入します!



電気自動車等(EV、PHEV、FCV)の普及が進んでいます

環境性能の高い電気自動車等の普及を促進するため、企業等への導入推進やイベント等での普及啓発などに取り組んでいます。

太陽光発電の普及が進んでいます

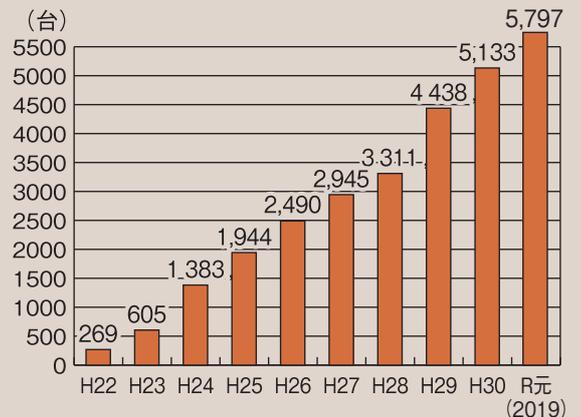
令和元(2019)年度末現在の県内に設置された太陽光発電総設備容量は、1,802MW(うち住宅用は291MW)となっています。

今後、家庭や地域等において、自然環境や景観との調和に十分配慮しつつ、安全な導入が進むよう普及に向けた取組を推進します。



岡山空港太陽光発電所

■県内電気自動車等普及台数(累計)



新エネルギーの普及促進を図っています

小水力やバイオマス発電などを学ぶ研修会を開催し、地球温暖化防止のため、新エネルギーの普及促進を図っています。



食品ロス削減の促進



©岡山県「ももっち・うらっち」

まだ食べられるのに捨てられてしまう、いわゆる「食品ロス」削減について、買いすぎない、使いきる、食べきる等食品ロスを減らすライフスタイルの定着に向け、県民、事業者の削減行動を促進します。

海ごみ対策の推進

瀬戸内海のごみは、河川等を通じて流入する日常生活系のごみが多いことから、海ごみの状況、原因、環境への懸念等を県内全域の皆さんに知っていただくことで、不法投棄の防止やごみの発生抑制を促進します。

また、市町村と連携して、民間団体等の海ごみ回収活動を促進します。

産業廃棄物のリサイクル

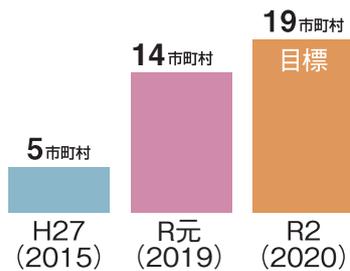
産業廃棄物の再生利用を促進するために、循環型産業クラスターの形成推進や、「循環資源マッチングシステム」の活用による循環資源の有効活用に取り組んでいます。

岡山県循環資源総合情報支援センターホームページ
<http://juncan.pref.okayama.jp/>

災害廃棄物の円滑な処理体制づくり

大規模地震等の災害に伴う多量の災害廃棄物の発生に備え、市町村、国関係事業団体等との協力・支援体制の整備や図上訓練、市町村災害廃棄物処理計画の策定支援等に務めています。

●災害廃棄物処理計画策定市町村数



<トピックス>

平成30年7月豪雨災害で発生した災害廃棄物の処理

この豪雨災害では、県内で44万トン以上の大量の廃棄物が発生したため、県では、処理主体である市町村での処理が円滑かつ迅速に進むよう、処理方法などの技術的助言や自治体間の広域調整などを行い支援しています。

また、支援の一環として、倉敷市と総社市から処理事務を受託し、県自ら災害廃棄物の処理も進めています。

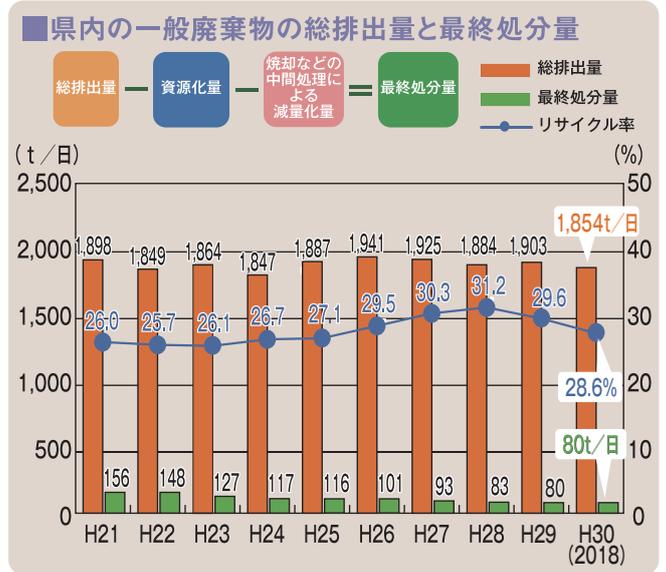
目標とした発災後2年間で確実に処理完了し、被災地の復興に向けた一つの節目となるよう、取り組んできた結果、令和2年3月末時点の進捗率は90%を超えており、順調に処理が進んでいます。

※県代行処理分は令和2年4月16日に処理完了、6月17日には県内の全ての災害廃棄物処理が完了しました。



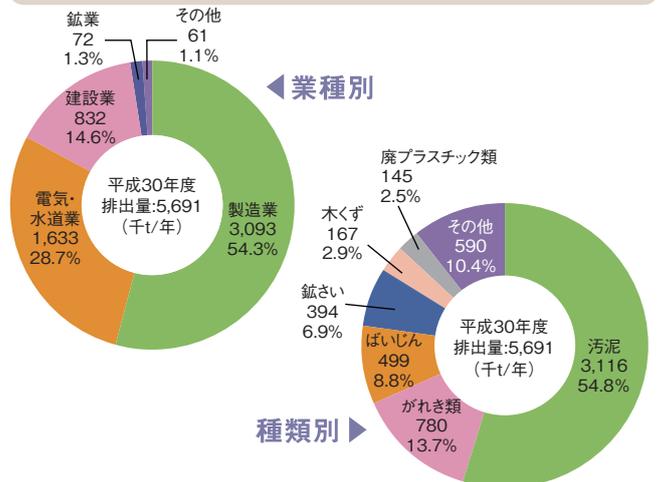
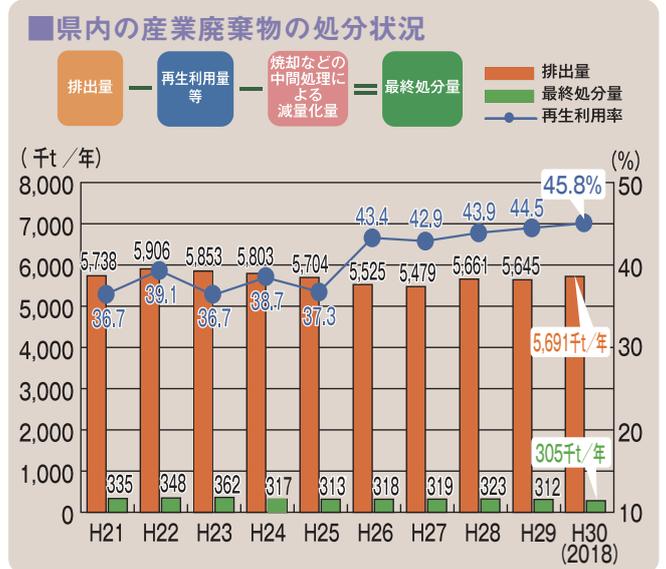
一般廃棄物対策

ごみの排出量は、平成16（2004）年度をピークに減少傾向にありましたが、近年は、ほぼ横ばいで推移しています。最終処分量については、平成13（2001）年度以降、減少傾向にあります。



産業廃棄物対策

平成30（2018）年度の県内産業廃棄物排出量は約569万トンです。近年、排出量は横ばいですが、循環の利用が進み、再生利用率は上昇傾向、最終処分量は減少傾向にあります。



基本目標 3

確保① 安全な生活環境の



都市化の進展や生活様式の変化により、私たちは今日、様々な環境問題と直面しています。大気汚染の原因として、近年は、工場だけでなく、自動車の排出ガスが大きな割合を占めています。自動車交通は、騒音などの原因にもなっています。本県では、工場・自動車対策などによる大気汚染防止、騒音・振動の防止や有害物質対策など、安全な生活環境の確保のために総合的に取り組んでいます。

現状と課題

大気環境の保全 二酸化硫黄や二酸化窒素などの代表的な大気汚染物質については環境基準を達成していますが、光化学オキシダントはすべての測定局で、微小粒子状物質（PM2.5）は多くの測定局で環境基準を達成していません。きれいな空気を保つためには、工場等の固定発生源からの排出抑制とともに、自動車等の移動発生源からの対策を、県民、事業者、行政の協働で一層推進することが必要です。

騒音・振動の防止 道路に面する地域において、騒音に係る環境基準を超過しているところがあることから、道路構造の改善、交通システム、沿道の土地利用対策などの総合的な対策が必要です。

主要施策

- 大気環境の保全
- 騒音・振動の防止
- 有害化学物質対策

重点プログラム

- 県公用車への低公害車の率先導入
- バス・電車等の利用促進
- 大気汚染防止夏期対策の実施
- 微小粒子状物質（PM2.5）対策の推進
- 道路交通、新幹線鉄道の騒音・振動対策
- 環境コミュニケーションの推進 など

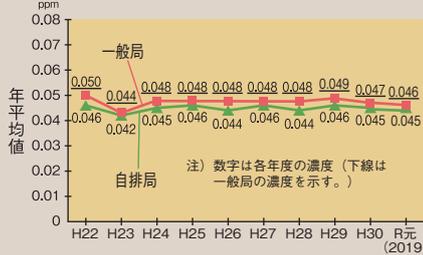
環境基準達成状況（主な項目）

測定項目	環境基準値	達成状況(R元(2019))
二酸化硫黄	1日平均値0.04ppm以下	全測定局(41)で達成
一酸化炭素	1日平均値10ppm以下	全測定局(7)で達成
浮遊粒子状物質	1日平均値0.10mg/m ³ 以下	全測定局(54)で達成
光化学オキシダント	1時間値0.06ppm以下	全測定局(45)で非達成
二酸化窒素	1日平均値0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下	全測定局(56)で達成
微小粒子状物質	1年平均値15μg/m ³ 以下かつ1日平均値35μg/m ³ 以下	26測定局中、21測定局で達成
ベンゼン	1年平均値0.003mg/m ³ 以下	全調査地点(13)で達成

語句説明

環境基準：健康保護と生活環境の保全の上で、維持されることが望ましい基準。
 光化学オキシダント：工場や自動車から排出された炭化水素や窒素酸化物が、紫外線の作用を受けて光化学反応することにより発生する酸化性物質の総称。日射が強くて気温が高く、風の弱い日の日中に発生しやすい。粘膜への刺激、呼吸器への影響、農作物への影響などがある。
 浮遊粒子状物質：粒径が10μm以下の粒子で代表的な大気汚染物質のひとつ。
 微小粒子状物質：粒径が2.5μm以下の微小粒子。呼吸により気道の深部まで到達しやすいため、浮遊粒子状物質よりも健康影響が大きいことが指摘されている。PM2.5ともいう。

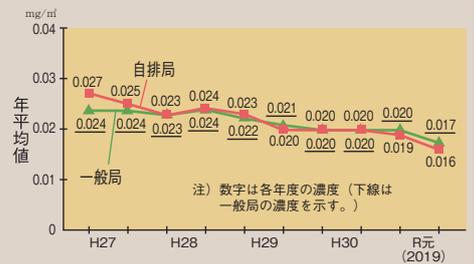
■光化学オキシダントの昼間の日最高1時間値の年平均値の推移



■微小粒子状物質 (PM2.5) の年平均値の推移



■浮遊粒子状物質の年平均値の推移



環境にやさしい運転に取り組もう

やさしい発進を心掛ける「ふんわりアクセル」や「アイドリングストップ」など、環境に配慮した自動車運転「エコドライブ」の普及に取り組んでいます。

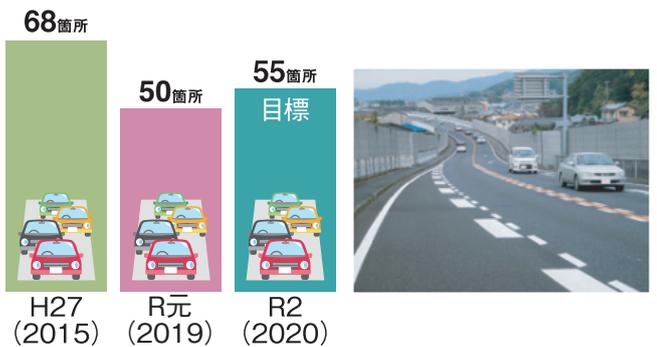
●エコドライブ宣言者数



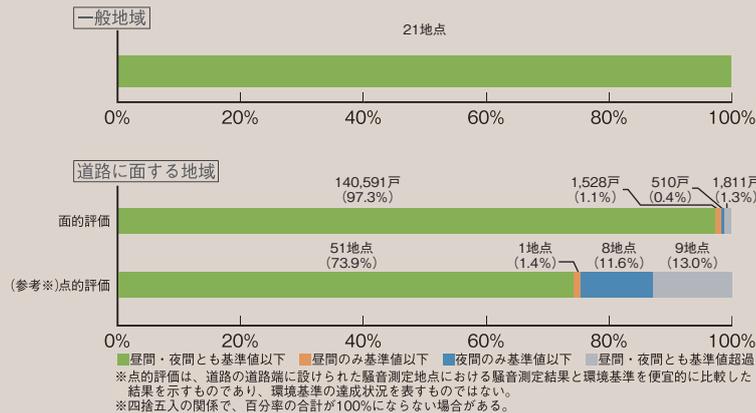
渋滞緩和で人や物のスムーズな移動を確保

道路の拡幅やバイパスの整備など、効率的・効果的な道路整備に努めています。

●主要渋滞箇所数の状況



■騒音に関する環境基準達成の割合 (R元 (2019))



■ダイオキシン類による汚染状況の調査結果の概要 (R元 (2019))

環境媒体	環境基準	環境基準達成状況
大気	0.6 pg-TEQ/m³ 以下	全地点 (13地点) で達成
公共用水域水質	1 pg-TEQ/L 以下	全地点 (58地点) で達成
公共用水域底質	150 pg-TEQ/g 以下	全地点 (47地点) で達成
地下水質	1 pg-TEQ/L 以下	21地点中、20地点で達成
土壌	1,000 pg-TEQ/g 以下	全地点 (30地点) で達成

■特定化学物質の届出排出量等の概要 (H30 (2018))

地域名	届出事業所数	届出物質数	届出排出量 (t/年)	届出排出量の多い物質
岡山地域	253	147	1,180	トルエン、キシレン、N,N-ジメチルホルムアミド
東備地域	60	68	88	フェノール、1-ブロモプロパン、トルエン
倉敷地域	185	140	2,183	キシレン、トルエン、ノルマルヘキサン
井笠地域	64	81	549	トルエン、ジクロロメタン、スチレン
高梁地域	30	49	20	キシレン、エチルベンゼン、1、2、4-トリメチルベンゼン
新見地域	29	38	1	ノルマルヘキサン、トルエン、ふっ化水素及びその水溶性塩
津山地域	74	58	319	ジクロロメタン、トルエン、トリクロロエチレン
真庭地域	29	40	14	HCFC-225、ジクロロメタン、スチレン
勝英地域	56	71	127	トルエン、キシレン、ジクロロメタン
県全体	780	212	4,481	トルエン、キシレン、ノルマルヘキサン

備考 四捨五入により合計が一致しないことがある。

基本目標 3

安全な生活環境の確保 ②



高梁川、旭川、吉井川の三大河川や美しい瀬戸内海を持つ岡山。その豊かな水資源は私たちの暮らしに欠かせないものです。本県では、河川の良い水質を保全し、瀬戸内海や児島湖の水質を改善するため、工場排水に対する規制や生活排水対策を実施するとともに、川や海の生き物を守り増やすための取組を進めています。

現状と課題

水環境の保全 河川のBODは、近年ほとんどの水域で環境基準を達成しています。児島湖のCODは、依然として環境基準を達成していませんが、ハード・ソフト両面の総合的な対策により、近年はゆるやかな改善傾向が見られます。

さらなる水質改善に向けて、工場・事業場排水の徹底した管理、生活排水の適正処理が必須ですが、農地や市街地からの流出水対策や自然の浄化能力を活用した河川護岸や用水路・排水路の整備も必要です。

主要施策

- 水環境の保全
- 土壌・地下水汚染対策
- 有害化学物質対策

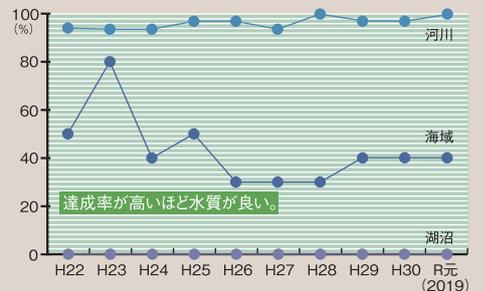
重点プログラム

- 生活排水対策の推進
- 環境に配慮した水辺づくり
- 児島湖再生の推進
- 沿岸域の環境の保全、再生及び創出
- 瀬戸内海の自然景観及び文化的景観の保全
- 水産資源の持続的な利用の確保

など

県内公共用水域の環境基準の達成率 (BOD・COD)

※水の汚れの代表的な指標であるBOD・CODについて掲載



測定項目		達成状況 (R元(2019))
BOD	河川	全31水域で達成
COD	海域 湖沼	全10水域中4水域で達成 児島湖は非達成(7.7mg/L)
窒素・りん	海域 湖沼	窒素は全8水域で達成 りんは全8水域中7水域で達成 児島湖は窒素、りんともに非達成
健康項目(27項目)	河川・海域・湖沼	公共用水域全地点で達成

語句説明

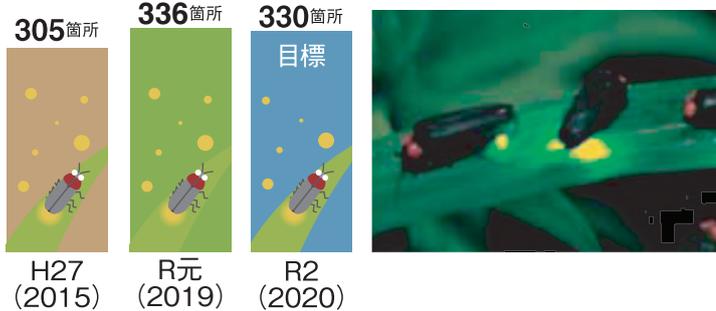
BOD：生物化学的酸素要求量。水中の有機物を微生物が分解した際に消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る指標

COD：化学的酸素要求量。水中の有機物を酸化剤で化学的に分解する際に消費される酸素の量で、湖沼・海域の有機汚濁を測る指標。湖沼・海域では植物プランクトンによる影響を避けるため、BODではなくCODが用いられる。

環境に配慮した水辺づくり

県内には大小多くの河川があり、その多くがきれいな水と豊かな水量に恵まれています。しかし、都市周辺など、一部では水質汚濁が見られ、また、開発に伴う森林減少やコンクリート護岸などによる水辺環境への影響も懸念されています。県内河川の清流を守り、多様な動植物が生きることができる河川空間をつくる取組を進めています。

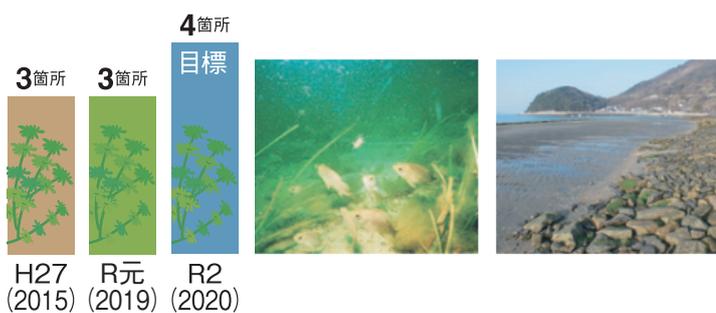
●ホタルの生息地箇所数



豊かな自然を育む里海づくり

藻場や干潟は、多くの魚介類を育む「海のゆりかご」としての役割を持つほか、水質浄化など重要な機能を持っています。瀬戸内海の豊かな恵みを回復させるため、藻場・干潟の保全・再生など里海の整備を進めています。

●里海の整備箇所数

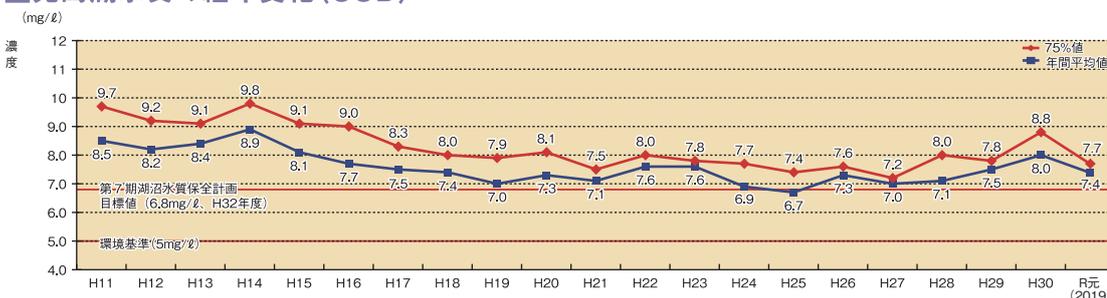


育てよう、美しい児島湖

児島湖は、農業用水の貴重な水源であるとともに、豊かな水産資源を育む漁業の基盤です。また、周辺の自然豊かで広大な水辺空間は、私たちの生活に潤いと安らぎをもたらしてくれます。一方、児島湖は湖水が入れ替わりにくく汚濁が進行しやすい閉鎖性水域であることから、流域の都市化や生活様式の変化を受けて水質汚濁の問題が顕在化しましたが、下水道の整備などにより、近年、徐々に水質が改善されています。

児島湖の水質汚濁の最大の原因は、日常生活のなかで各家庭から排出される生活排水です。私たち一人ひとりが汚れた水をできるだけ流さないよう心掛けて行動することが大切です。

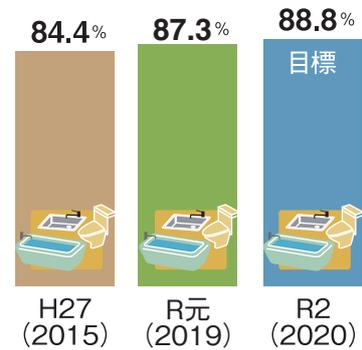
■児島湖水質の経年変化(COD)



生活排水対策

公共下水道の整備促進を図るほか、地域の実情に応じて集落排水施設や合併処理浄化槽の整備を実施しています。

●岡山県の汚水処理人口普及率



きれいな児島湖を未来に

流域下水道や浄化槽の整備など各種浄化対策を進めるとともに、湖畔のアダプト活動など清掃美化活動を推進しています。

●児島湖流域清掃大作戦

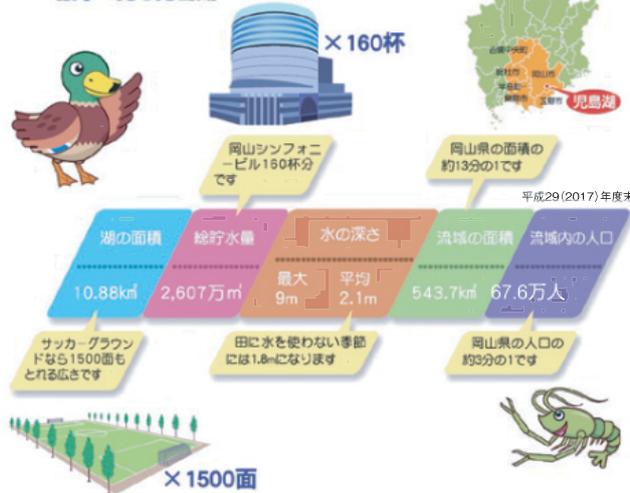
毎年、児島湖や流域河川（笹ヶ瀬川、倉敷川など）の一斉清掃を実施しています。



●児島湖で見られる生きもの



数字で見る児島湖



基本目標 4

自然と共生した 社会の形成



本県には、中国山地や吉備高原、瀬戸内海と、豊かで多様な自然があります。しかし開発による土地利用の変化や里地里山の荒廃などにより、生物多様性を育む豊かな自然は、急速に損なわれています。かけがえのない郷土の自然や生態系を守るため、県では「自然との共生おかやま戦略」を策定し、自然環境・生物多様性の保全に取り組んでいます。

現状と課題

本県の豊かな自然環境は、県民共有の財産です。エコロジカルネットワークの考え方も踏まえながら、より良い形で次代に引き継いでいくこと、生物多様性を確保し、人と自然との共生関係を構築することが求められています。また、自然に関する理解と関心を深め、環境を大切にすることをはぐくむ重要な機会となる「身近な自然とのふれあい」に対する県民ニーズが年々高まっており、その機会を増やしていく必要があります。

主要施策

- 豊かな自然環境の保護
- 野生生物の保護
- 自然とのふれあいの推進
- 水とみどりに恵まれた環境の保全とみどりの創出
- 自然との共生おかやま戦略の推進

重点プログラム

- 自然公園等の適切な利用指導
- 希少野生動植物の保護
- 特定鳥獣保護・管理対策の推進
- 移入種等に関する普及啓発等の推進
- 自然とふれあえる体験の場や機会の充実
- 緑化推進体制の充実

など

指定希少野生動植物

岡山県希少野生動植物保護条例に基づき、特に保護を図る必要のあるものを指定希少野生動植物に指定し、捕獲などを規制するとともに、指定希少野生動植物保護巡視員や多様な主体と協働し、その生息・生育環境を含め、保護活動を推進しています。

指定希少野生動植物指定状況(R元(2019)年度末)

種別	指定希少野生動植物名	指定年月日	種別	指定希少野生動植物名	指定年月日
動物	カワバタモロコ	H24.3.30	植物	マルバノキ	H16.7.16
	ナガレタゴガエル	H25.3.15		(ベニマンサク)	
		ミズアオイ			
		エヒメアヤメ		H17.8.26	
		サクラソウ		H21.4.14	
			ミチノクフクジュソウ		

岡山県版レッドデータブック2020

本県の希少な野生動植物1,485種を収録し、環境アセスメント審査や野生生物保護対策の基礎資料として活用しています。



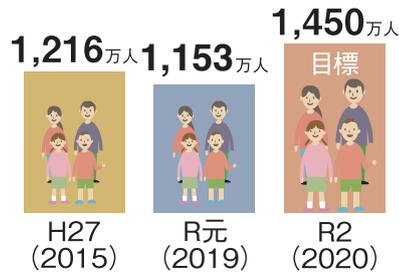
ヒメユリ
岡山県絶滅危惧I類

スイゲンゼニタナゴ
岡山県絶滅危惧I類

自然環境学習の充実

国や関係市町村と連携して施設の維持管理や普及啓発に取り組み、利用者数の拡大を図っています。

●自然公園利用者数

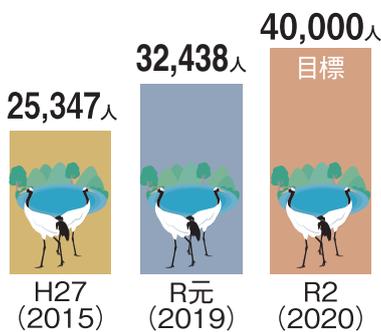


人と生き物の暮らしの交わる場所、県民が育て楽しむ森づくりの推進

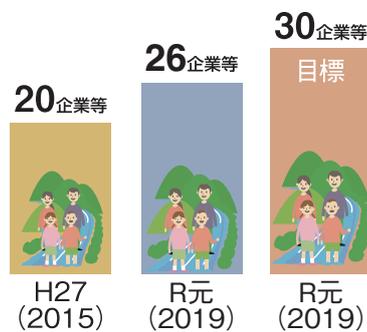
優れた里山自然環境を活用して、岡山県自然保護センターで自然観察会の開催や、人材育成、研究活動等に取り組んでいます。

「おかやま森づくりサポートセンター」の活動支援や、企業との協働の森づくりなど、森林ボランティアグループ等の自主的な活動を促進することにより、参加者が森の恵みを楽しみながら地域の森づくりを行う取組を推進しています。

●自然保護センター利用者数



●企業との協働の森づくり活動への参加企業・団体数



すばらしい自然を守るために

県立自然公園や県自然環境保全地域等を指定し、これらの保護と適正な利用を推進しています。また、中国自然歩道を整備し、自然とのふれあいを深める場や機会の充実を推進しています。



進 推 目 標 1

参加と協働による 快適な環境の保全

今日の環境問題の多くは私たちのライフスタイルと密接に関係しており、身近な地域の環境を安全で快適に保つためには、私たち一人ひとりが環境保全に対する理解や認識を高め、着実に実践していくことが必要です。県民、事業者、環境NPO、ボランティア等と行政との協働による環境保全活動を促進するとともに、主体的な保全活動に向けた様々な体験を通じた環境学習機会の提供などにより、快適な環境の保全を推進しています。



地域ぐるみで街や川・海をクリーンアップ

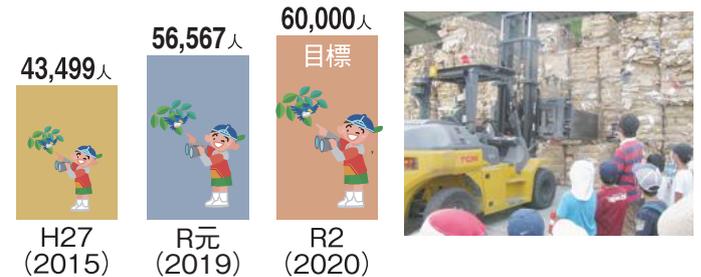
住民グループ等と県、市町村との協働による道路、河川、海岸、公園及び児島湖の環境美化活動（アダプト事業）を推進することにより、美しい空間の創造と環境保全意識の高揚を図っています。



みんなの心に、 環境への思いやりが育っています

環境保全を推進するために、県民一人ひとりが、身近な生活環境や地球環境について実感を持って学び、考え、行動することが大切です。県では、体験型の環境学習出前講座や環境学習エコツアーを実施するなど、より実践的な環境学習の機会の提供を通じて、県民全体の環境保全意識の高揚を図っています。

●環境学習エコツアー参加者数(累計)



●環境学習出前講座の協働実施回数



移動環境学習車「さんよう号」

平成21(2009)年度に導入された「さんよう号」は、様々な環境学習機材を搭載しており、自転車型発電機による発電体験や太陽光による調理体験（ソーラークッキング）など、多様な体験学習を行うことができます。令和元(2019)年度は、環境学習出前講座や環境イベント、学校や地域団体への貸し出し等、合計32回出動しました。



現状と課題

私たちの生活に身近な環境の保全に大きな役割を果たす地域コミュニティの活力低下が懸念されており、また、地球温暖化対策や3Rのように一人ひとりの着実な実践が重要となる課題も多くあります。これらの課題を解決し、快適な環境で生活するためには、県民、事業者、ボランティアなど多様な主体と行政との協働や、環境学習の充実が必要です。

主要施策

- 協働による環境保全活動の促進
- 環境学習の充実
- 景観の保全と創造

重点プログラム

- 環境パートナーシップの形成促進
- アダプト事業の推進
- 実践的な環境学習の機会の提供
- 環境学習指導者の育成・活用

など

推進目標
2

環境と経済が好循環する仕組みづくり

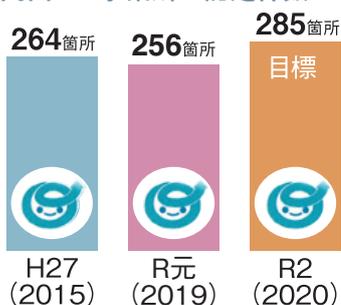


持続可能な社会を構築するためには、環境と経済が対立する関係から、環境と経済が好循環する仕組みをつくる必要があります。県では、環境保全を経済発展につなげるグリーン成長の推進を図るとともに、事業活動に伴う環境負荷低減のため、環境マネジメントシステムやCSR（企業の社会的責任）活動の普及拡大に努めます。

環境にやさしい事業所づくりの推進

環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001や、中小企業等でも取り組みやすい「エコアクション21」の普及拡大に取り組んでいます。また、グリーン調達やゼロエミッションに積極的な事業所を「岡山エコ事業所」として認定・公表しています。

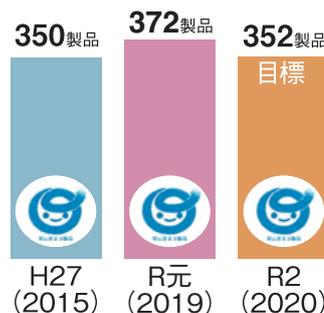
●岡山エコ事業所の認定件数



岡山県エコ製品の認定

県内で製造販売されている使用を促進すべきリサイクル製品であって、県が定める認定基準を満たした製品を「岡山県エコ製品」として認定し、利用を促進しています。

●岡山県エコ製品の認定品目数



[認定マーク]



現状と課題

環境保全を経済発展につなげる「グリーン成長」という考え方が拡大しており、我が国においてもこうした考え方により、地域産業の振興につなげることが期待されています。また、「企業は経済面だけでなく、社会や環境の面などにも責任を持つべきである」というCSR（企業の社会的責任）の考え方にに基づき、環境に配慮した事業活動の実施を社会的に評価する動きが高まりつつあります。

主要施策

- グリーン成長の推進
- 環境に配慮した事業者の育成・拡大
- 環境影響評価の推進

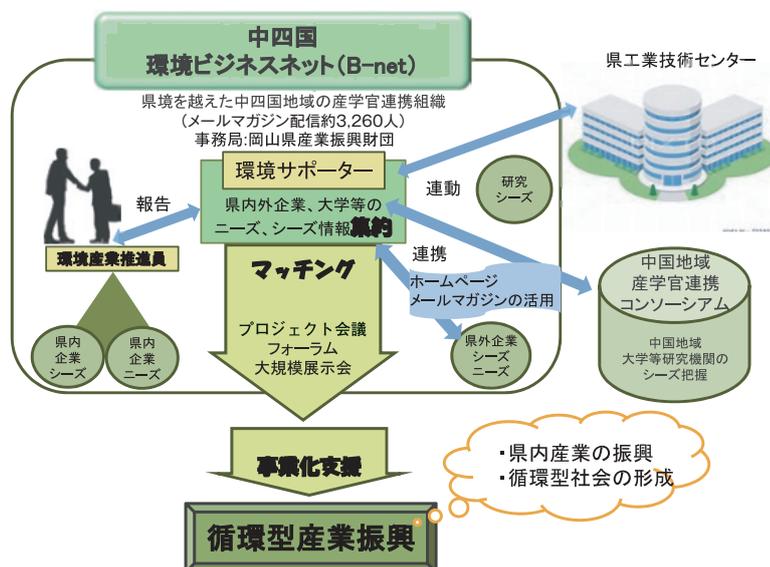
重点プログラム

- 電気自動車等の普及と技術開発
- 循環型産業クラスターの形成
- 「岡山県エコ製品」の認定・周知
- 「岡山エコ事業所」の認定・周知
- 省エネルギー型機器等の普及拡大
- 環境マネジメントシステムの普及拡大など

循環型社会をつくるための取組

産学官で構成する「中四国環境ビジネスネット」(B-net)を活用し、3Rに関する新技術やビジネスモデル、各種ニーズ等について、中四国地域を視野に入れた広域でのビジネスマッチングを推進しています。

中四国環境ビジネスネットホームページ <http://bnet-okayama.jp/>



THE ENVIRONMENT OF OKAYAMA

おかやま環境レポート 2020

岡山県環境文化部環境企画課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL 086-226-7285 FAX 086-233-7677

e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

